



2013年8月19日

内閣総理大臣  
安倍晋三 様

日本 YWCA  
会長 俣野尚子  
総幹事 西原美香子

## 閣僚の靖国神社参拝に強く抗議します

2013年8月15日に、新藤義孝総務相、古屋圭司国家公安委員長、稲田朋美行政改革担当相ら閣僚が公の立場で靖国神社を参拝しました。また、安倍晋三内閣総理大臣は公式参拝しなかったものの、閣僚らの公式参拝を容認するとともに、自らは自民党の萩生田光一総裁特別補佐を代理人として靖国神社に自民党総裁名で玉串料を奉納しました。さらに安倍総理大臣は、当日政府主催の全国戦没者追悼式での式辞で、アジア諸国に対する損害や反省などに言及せず、近年の首相が表明していた「不戦の誓い」にも触れませんでした。私たち日本 YWCA はこれら一連の動きに強く抗議します。

かつて靖国神社は、日本のアジア侵略と軍国主義の精神的支柱でした。現在もその根本的精神は変わっていません。また、靖国神社は軍の宗教施設としての性格をもち、国家神道の中心施設として戦意を高揚し鼓舞する役割を果たしていました。閣僚らが靖国神社に公式参拝することは、日本の侵略戦争を美化し、肯定する行為だと言わざるを得ませんし、日本国憲法の「戦争放棄」「信教の自由」「政教分離」の原則および99条の憲法遵守義務違反です。閣僚らの靖国神社公式参拝も、「憲法改正」を自らの歴史的使命とする安倍首相の8月15日の言動も、安倍政権のさらなる右傾化を象徴したものであり、看過できるものではありません。

日本 YWCA は、アジア太平洋戦争の歯止めになり得なかったことを深く反省して、戦後は日本の加害の歴史を直視し、青年たちのアジア諸国への訪問・交流・協働プログラムを通して次世代の平和構築に力を注ぎ、また日本国憲法をまもる活動にも取り組んできました。その立場に立って日本 YWCA は、日本政府にはアジア太平洋戦争の加害に対して正式に謝罪と補償を行って信頼回復のスタート地点に立ち、非暴力による平和構築をする責任があると考えます。それこそが、日本国憲法前文に記された日本政府がなし得る平和構築であり、真の国際貢献だからです。

よって日本 YWCA は、ここに閣僚らの靖国神社公式参拝および安倍総理大臣の言動に強く抗議するとともに、日本政府が今一度、真の歴史認識に立ち返って国政を行われることを強く求めます。